

☆「Wonderland 彷徨後の変身」(残間友子)

「TURN フェス2」～Everything in Wonderland～

お馴染みの上野恩賜公園、今日はここ上野の森に数ある美術館の一つ、東京都美術館で開催されている「TURN フェス2」に参加するためにやって参りました。"多様な人との出会い方、つながり方に創造性を携え働きかけていくアートプロジェクト"とのこと。ちょっと難しそうだけれどわくわくします。

いつものように東京都美術館は、様々な展示、催し物で賑わっています。見慣れた美術館のたたずまい。その一画に、Wonderland の入り口がありました。

《Wonder その1 -beyond my understanding》

いきなり大きな衝撃。

"これはいったい何！？何を表現したいの？何のための企画？展示？・・・"

それぞれの展示が、企画が、私の理解力と想像力の天井を突き破ったはるか彼方に位置するものばかり……。芸術的センスが全くない私だから、あるいは頭が固すぎる人間だから理解できないのかも……。

そもそもどこに福祉施設とアーティストがコラボする必要があるのだろうか？隣で学校の先生が偉そうに「なるほど、先入観、常識にとらわれることのないアートは、健常と障害の垣根を最も飛び越えやすい分野なのですね……」なんてわかったようなことを言っている……。でも、私のようなごくごく一般的な高校生に言わせると、「よくわからない(健常でないということ)×なんだかわからないこと(アート)＝全くわけわからない(わからない)2」なのです。

《Wonder その2 -Chaos》

福祉施設で踊るダンサー……生け花とマッピング……みんなで落書きアート……ビニール傘に絵……キラキラ光りの反射をとらえた写真……カフカとベッド……観せる楽屋……球体の家……嚙下食体験……声が聞こえる枕……人間機織り機。

展示全体に……秩序がない。決まりがない。統一性がない。

だからやっぱり……わからない……。

《Wonder その3 -borderless》

ここには何かを規定する境目がありません。圧巻なのはここでそれぞれの展示を企画しているオトナの人たちです。なんだかよくわからないことにこんなに真剣に、必死に、一生懸命取り組んでいるその姿は私の中の大人の概念を完全に超越しています。その真摯な姿はまさに pure な子供。大人と子供、常識と非常識、健常であることとないこと、良いことと良くないこと。その境目が、この Wonderland には存在しません。



Wonderland 最後の企画展示は人間機織り機。世にも不思議な世界に足を踏み入れて心身ともに疲れ果て、頭が思考停止状態になったその時、「さあ、お互いを信頼して身を任せましょう」という掛け声でいきなり始まった共同作業。2 人の人間が経糸の端と端を引っ張り合い、別の 2 人が棒切れを使ってその経糸を交互に上下に動かし横糸を通して布を織っていく。アンデスの山奥では現在でもこの方法で布が織られているとのこと。最初は戸惑ったものの、すぐにみんなの息が合い、無言のうちに一目一目布地が織られてゆく…。この作業、なぜだかとても心地が良いのです。共同作業というものの原点を感じました。そして、皆で無心に機織りをしていたある瞬間、私の Wonder は突如として Turn に変わったのです。



#### 《TURN その1 -Experience》

「経験は理解を超える。」頭での理解はあくまでも知識の蓄積であって私にとっての真実ではなかったのです。体験することによって感じることを、「わかる」こと、つまりはそれこそが私にとっての真実であるのだということが解ったのでした。

#### 《TURN その2 -Cosmos》

「違うことに意味がある。」ここにいる私も、そこにいるあなたも、人間はみな唯一無二の存在であることを思い出しました。そもそもどの人も"違った"存在なわけで、価値観も自由であって当然なわけですね。表面的な秩序とか決まりとか統一性とか、そんな

些末なことを飛び越えた先にある人間というものの愛すべき本質。宇宙的視野で眺めてみたらみんなきっと同じに見えるでしょう。視野を狭めていたのは実は私の単なる思い込みだったのです。目の前に在るものを純粹に楽しめばいい。そう気づいたらあら不思議。体も心もとっても軽くなって、何でも面白く観えてきます。

《TURN その3 -the Globe》

「世界は一つ。」もう一つ、大切なことを忘れていました。私たちが生きているこの地球が"1個の球体"であることです。このことは私たち人間の在るべき姿を象徴しているように思います。地球上のどこにあっても、私たちの存在は全てその中心から等しい距離にあります。本来は境界線なんてどこにもないですよ。みんな繋がっている筈です。自分達の都合で様々なところに境界線を引くことによって、私たちは自ら世界をとんでもなく縮めて、ゆがめてしまっているのだということに気づいて、愕然としたのです。



この不思議な Wonderland を後にして上野駅に向かう私は、数時間前、TURN を経験する前の私とは、明らかに違った人間になっています。おそらく外見は全く変わっていないでしょう。ではどこが変わったのかと聞かれると・・・よくわからない・・・少なくとも言葉では上手く表せません。ただ、私は数時間前の自分よりも Wonderland を彷徨った後の私のほうが圧倒的に好きなことは確かです。そして、この言葉にできない、良くわからないことが、とっても大切なことなのではないかと感じています。「説似一物即不中」、ぜひ皆さんもこの不思議な世界「TURN フェス2」を体感してみてください。たくさんの新しい発見が皆さんを待っていることでしょう。